

## 令和2年9月 市長定例記者会見

2020年8月26日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和2年9月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質問応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思いますと思っています。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そしてご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後はお切りいただきますようよろしくお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。9月の記者会見です。よろしくお願いいたします。

まず、一番最初ですけれども、COCOAのソフトで、市の職員59人が陽性者との接触の疑いがあるということでしたけれども、そのうち57人まで検査しまして異常がないということでしたので、よかったなというふうに思っております。取りあえず市役所の業務を続けながら対応ができたということで、今後ともしっかりと進めていきたいと思っておりますし、また、コロナについて申し上げますと、先日の4連休の後というのは、敦賀市、7月31日から8月7日まで感染者が出たわけなんですけれども、お盆明けの現在につきましては実際感染者が出ていないということで、非常に市民の皆さん、しっかり自粛していただいたということで感謝申し上げたいと思っております。

本日は、9月1日から始まります議会の補正予算や一般議案を上程させていただきますので、しっかり説明をしていきたいというふうに思っておりますし、また、花火大会が今年は中止になりましたけれども、観光協会でのコンピュータグラフィック、またRCNでの過去の花火大会を放映していただきまして、皆さんの気持ちを慰められたんじゃないかなというふうに思っております。来年はしっかりと花火大会をしたいと思っておりますし、また、今後ともコロナと付き合いながらしっかりと行政を進めていきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 発表項目は3件でございます。

1つ目は、令和2年度9月補正予算案の概要についてでございます。

今回の補正予算につきましては、国、県補助金の内示決定に伴うものなど、前回補正以降に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、市庁舎整備につきましては、資材の調達の遅れ等があり本年度内の完成が難しいことから繰越明許費を計上いたしました。

また、ふるさと納税の実績が順調に伸びており、今後、返礼品等の経費に不足が見込ま

れることから所要額を計上いたしました。

その他補正予算の主な事業として、商工費では、今年に入り市内で操業を開始した企業3社に対する企業立地補助金を計上するとともに、コロナ禍により疲弊する市内宿泊事業者への支援として、これからのシーズンを迎える越前がにや敦賀ふぐ、敦賀真鯛などを取り入れた宿泊プランを提供する市内宿泊施設への宿泊者に対し、料金を割引するための事業費を計上いたしました。

また、観光庁の補助採択を目指し、コロナ禍における新たな観光実証事業を行う経費を計上いたしました。

特別会計では、介護保険特別会計において、介護給付費国庫負担金等の精算返還金を計上いたしました。

企業会計では、市立敦賀病院事業会計において、病院職員をはじめ委託事業者の職員を含めた新型コロナウイルス感染症対応従事者への慰労金を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要であります。

2番目に、敦とんウォークの開催についてでございますが、生活習慣病及びフレイルを予防し、新型コロナウイルスに負けない体づくりを目的に、敦賀駅から相生町までのアーケードを使って、歩くことを中心とした健康づくり“敦とんウォーク”を9月から11月にかけて6回開催いたします。

昨年度まではアーケードウォークとして開催していた事業を、とんとん拍子に楽しく健康づくりが進んでいくようにといった思いを込めて、敦とんウォークと名づけ、回数を拡大して実施します。今年は、感染症予防のため、みんなで一斉に歩くという形ではなく、受付時間を長く取り、受付後は個々で歩いてもらう形のウォークになります。新しく整備した本町通りを眺めながらアーケードを歩き、健康づくりに取り組んでいただけたらと思っています。また、理学療法士による姿勢チェックを3日間行いますので、この機会に効果的な歩き方を学んでいただけたらと思っております。感染症対策に十分留意をして実施いたしますので、市民の皆様のご参加をお待ちしております。

3番目に、国道8号敦賀空間再整備完成式典の開催についてでございます。

10月3日土曜日午後2時から、北公民館において、国道8号敦賀空間再整備事業の完成式典を開催いたします。

昨年9月に工事着手し、工事期間中は、市民の皆様にご不便をおかけしましたが、国、市が一丸となり鋭意施工を進め、間もなく工事完成となります。今後は、道路管理者である国土交通省のご協力を得ながら、より利活用しやすい空間となるよう取り組んでまいります。

発表項目は以上です。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 ご挨拶の中にあつたふるさと納税の実績が順調というのは、今どれぐらいなのでしょう。

【企画政策部長】 お答えいたします。

ふるさと納税の額につきましては、当初予算で1億円計上しておりましたが、今回、補正予算で6億5000万円を上積みさせていただきまして、トータル7億5000万円の計上をい

たしております。この数字は、昨年度の決算額が6億2700万円でしたので、約1.2倍の数字という形になります。

算出根拠といたしましては、7月末までに約1億1000万円の寄附をいただいております。これは昨年同期の約20倍でございます。それに8月以降の昨年度の実績を上積みして7億5000万ということで計上させていただいたところでございます。

以上です。

【記者】 好調である背景というのは何か。

【企画政策部長】 お答えいたします。2点あるかと思えます。

まず1点目が返礼品の内容、数の充実でございます。昨年同期では返礼品が約90品目あったのが、現在の返礼品は213品の約2.4倍まで拡大しております。これが1点目。

もう1点目といたしましては、掲載サイトを昨年8月から楽天のふるさと納税のサイトに掲載するようになりましたので、その効果が表れているものと考えております。

以上です。

【記者】 商工費の関連で、今年に入って操業した企業3社、これはどちらになるのでしょうか。

【産業経済部長】 3社でございますけれども、まず1社は日本ゼオン株式会社、そして楠原輸送株式会社、そして東洋紡株式会社。以上の3社でございます。

【記者】 3社が操業開始したということですが、なかなか、今、コロナで経済が落ち込んでいるところもあると思いますが、市として、3社が市内で操業できるようになったというのは大きいことかなと思うんですが、誘致できた要因というのは何か分析としてありますでしょうか。

【市長】 それぞれに企業さんに来ていただいて、工場を造っていただくということで、すけれども、日本ゼオンさんのほうは世界に輸出していくフィルムということですし、東洋紡さんも新しい素材を作っていることですので、そこに新しい雇用が生まれてくると思っていますし、製造業というのは、また観光と違いましてコロナの影響も受けにくいというふうに考えていますので、非常にありがたいなというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかよろしいでしょうか。

それでは、各社お伺いいたします。発表項目につきましてご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 敦とんウォークについてなんですけれども、新型コロナの感染者というのがまだ出ている中ではあるんですけれども、このイベント自体を、感染対策を取りながらと言いつつイベントを実施するという方向に決断された、その思いというのはどういうところにあるのでしょうか。

【市長】 また担当のほうから答えると思えますけれども、例年、一斉に来ていただいて、120人程度というふうに聞いていますので、100人前後の方たちが集まって一斉に歩くのではなくて、今回、1時間以上、受付時間を設けていますので、三々五々、それぞれ分かれて、屋外ですから歩いていただくということで3密対策が取れるというふうに考えていますので、集客して大きなイベントという形ではないですけれども、健康のために、やはりそういう事業をしていこうということで進めていただいております。

【福祉保健部長】 今ほど市長からもお話をさせていただきましたが、今、コロナ禍とい

う中で、皆さん動きたいけれども動けないというようなどころをお持ちで閉じ籠もっている方もいらっしゃるかと思います。そのような中、特に高齢者の方につきましては、少しでも運動量が減っていくと筋肉が落ちていったりとかフレイルになる可能性があるということで、少しでも運動できる機会を確保しようというところで、今回、屋外ということでございますので、感染症予防に努めながら、いろいろ形を検討しながら実施することで、感染予防に努めての事業のほうもできるかなというふうな判断をいたしましたので、実施をするということになりました。

以上でございます。

【記者】 高齢者の方の体を動かすことの重要性というか健康維持のためには、そこは市としても大事だと捉えていらっしゃるところがあるのかなというふうに思うんですが、一方で、感染した場合の重症化とか、そういうリスクとかもはらんでいる部分もあるかと思いますが、その辺の対策というのは、しっかり取れてやられる感じでしょうか。

【福祉保健部長】 まずは通常の感染症予防に日頃から努めていただいて、健康チェックをご自身でしていただいた上で受付に来ていただき、その場所でも消毒等も行いながら実施するというところで、万全を期して実施する予定でございます。

ただ、今後の感染の状況等を踏まえますと、また事業の形態を変更であったりとか、あるいは中止等も検討しなければならないかなというところも出てくるかなと思っておりますが、やはり何もかも縮小というところではなく、通常ですと日曜日に開催してお子様から高齢の方までというところで行ってまいりましたアーケードウォークですが、今回は高齢者の方を中心というところで、平日の昼間というところに曜日のほうも変更させていただいて実施をするというところで、密を避けながら実施してまいりたいというふうに考えております。

【記者】 ありがとうございます。

では、続けて国道8号線のほうのイベントについてなんですけれども、まずは10月3日というところで式典が行われるような形にできたわけですけれども、工事の進捗なんかには何か不具合とかはなかったでしょうか。今後も、今もまだやっている様子が見受けられますけれども、大体どれぐらいのスケジュール感で8号線の状況というのは全て完成という感じになるのでしょうか。

【市長】 もともと敦賀まつりまでに完成していただくということを目標にスケジュールは組んでいただきましたけれども、敦賀まつりが中止になりましたので、そこはあまり気にせずにやればいいんですよということはお伝えしたんですが、今の進捗状況、また不具合については担当のほうからお答えします。

【都市整備部長】 国道8号線の工事につきましては、ほぼほぼ予定どおり工事は進められておりまして、今月中には主立った工事のほうは大方終わる予定となっております。その後、細かな工事完成検査等も受けなければなりませんので、それを9月中に行いまして、10月3日に完成式典を執り行いたいと、そういうふうなスケジュール感になっております。

以上です。

【記者】 大まかなところ以外の部分で、まだそこにはちょっと間に合わないとか、そういうような工事とかもあるのでしょうか。

【都市整備部長】 細かいところなんですけれども、当初予定しておりました植栽、高木

なんかは、この気象状況等を鑑みまして、今植えると非常につきにくいというふうな判断をさせていただきまして、植栽なんかは秋以降に発注を切り替えたりそういうふうなところをしております、あと、キッチンカーなんかが出店する際に電気を取りやすいような、そういった電気工事の細かいところなんかは秋に回したりしているところがございます。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

では最後に、式典と、あと式典後に通り初めというのが書かれていますが、その辺の流れとか、あとはコロナ対策の感じで式典をやられるのかどうかとか、その辺の中身がもし決まっていれば教えてください。

【都市整備部長】 現在、コロナ禍における完成式典の在り方というのを国土交通省の福井河川国道事務所と打合せしているところがございます、皆さん記憶に新しいところでございますと、当初の竣工式なんかは結構たくさんの人を呼んで執り行ったわけなんですけれども、完成式典のほうは人数をちょっと少なくしまして、限られた人数の中で式典を執り行いまして、テープカットをするほうがいいのか、通り初めがいいのか、そのあたりいかに感染拡大リスクを下げながら完成式典を行うというのを国土交通省さんと打合せしているところがございますので、また細かいところが決まりましたらご案内させていただきます。

【記者】 補正予算でお尋ねします。

先ほどの概要説明でもありましたけれども、まず観光庁の補助採択を目指すコロナ禍の新たな観光の実証事業、これは予算書を拝見するとムゼウムウィークでのイベントを検討されているということなんですけれども、ここはある程度の集客を見込んだイベントになると思います。ここにある感染ゲートの設置、感染対策、スタンプラリー、こういった感染症対策の概要を、もし決まっていれば教えてください。

【観光部長】 こちらは実証事業ということもございまして、感染症をいかに対策をするかということで、感染ゲートですけれども、まずは体温計につきましては、こういったハンディな体温計以外に、人が通ることで、サーモグラフィを使ったもので入場者の中で体温の高い人をチェックするというのを考えております。コロナ禍においての実証事業ですので、今回、人道ウィークということで、会場が金ヶ崎緑地ということですので屋外のイベントとなります。屋外ですとソーシャルディスタンスを保ちながら緑地の面積に合わせた人数での実施となりますし、屋内のイベントも一応計画しておりますけれども、屋内のイベントにつきましても国や県の基準に合わせてイベント等を開催するというので、現在、計画を考えております。

【市長】 国の補助をもらう中で、ウィズコロナの中でいかにどう観光をやっていくかということがテーマの一つになっていますので、部長が言いましたように、ウェルカムゲートのところで一斉に非接触の体温を測れたりとか、屋外でやることで3密を避けたりとか、そういう工夫をしながらやっていこうということを思っています。

ただ、難しいのは、たくさんの人に来てもらえると、それはそれで、普段でしたら成功なんでしょうけれども、あまり人が寄り過ぎるとそれはよくないわけですから、何かブレーキとアクセルを同時に踏むような仕掛けの中でやっていかななくてはいけないというふう考えています。

【記者】 ありがとうございます。

直接予算とは関係なくなってしまうんですけれども、ムゼウムの開館に合わせたイベントということで、現ムゼウムの成果と、あと新ムゼウムに対する期待、改めて市長のほうからお考えがあればお聞かせください。

【市長】 現ムゼウムの成果といいますと、ポーランド孤児とユダヤ難民のことを展示しているということで、非常に国、また海外からも注目度が上がってきているというふうに感じています。その中で、国の補助金をもらいながら新ムゼウムができるわけなんですけれども、教育施設プラス観光ということで、いろんなことを学びながら来ていただける施設にしていきたいというふうに思っていますし、それがまた市民の皆さんにとって、シビックプライドといいますか誇りとなるような仕掛け、また施設にしていきたいというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

補正予算でもう1点。補正予算の中で、リラ・ポートの検討に関する2つの委員会の経費が上がっているかと思うんですけれども、改めて、リラ・ポートの再開に向けたスケジュールなり考え方、それと、この2つの委員会で何を議論するのか、何を期待するのか、お聞かせください。

【観光部長】 適正な運営費の算定といいますか、そういったものにつきましては、市ではそういったことは算定できませんので、現在、複数のコンサル業者や専門家に相談しておりまして、どういった形で調べていくのがいいとか、調査内容、アドバイスを得ながら精査して実施してまいりたいと考えております。

また、第三者委員会といいますかそういったことにつきましては、こちらも弁護士の方でしたり税理士とか、あるいは中小企業診断士、こういった方に対して、リラ・ポートにつきましてはどういった事象があったのかと検証しながら考えております。スケジュールにつきましては、なるべく早くということですが、予算を出しておりますので、そちらが決まりましたら、既に準備行為とか折衝というんですかね、調整はしておりますけれども、3か月とか4か月といったことがかかるかなと思いますし、調査によっては早く終わるような調査もあるかなとは考えております。

以上でございます。

【記者】 国道8号線のこと確認なんですけど、完成は10月3日をもってよろしいでしょうか。

【都市整備部長】 工事の完成日等はまた別途あるんですけれども、一応この10月3日をもって、国交省、市とも完成という格好でお知らせしたいと、そういうふうに考えております。

【記者】 ありがとうございます。

あと、市長、改めて、この8号線、歩道のスペース等ができて、コロナ禍ではありますが、どういうふうに活用して、市民の憩いの場とか、どういうふうな期待がありますか。お願いいたします。

【市長】 国道8号の本町1、2丁目の4車線から2車線になるという議論の中で、どういう形態にしていくかというのは、かなり長い間、地元の方々の意見をいただきながら検討してきたところです。ですから完成して、私らこんなの望んでなかったのということ

をよく話を聞きますけれども、そういうふうにならないようにということでいろんな議論を進めてきましたので、地元の皆さんが出来上がってよかったねということを書いてくれるというふうに信じておりますし、また、広い空間ができますので、その広い空間をいかに有効に利用していくか、また使っていただくかということをしていきたいと思っております。その中でケータリングが使いやすいようにという仕掛けもしておりますので、そういうところでも新しい利用方法というのが生まれてくるということを期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

ちなみに、今のところ何か利用で決まっているものとかはあるんですか。完成後のイベントとか、こういうケータリングがこっちに来ますよというのは。もし決まっていたらお願いします。

【市長】 実証実験を10月下旬から11月頭ぐらいにするという予定を組んでいるところです。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へ移りたいと思います。幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 先ほども冒頭で市長おっしゃいました今回のCOCOAでたくさんの方に通知が来ている件を改めてどうお考えになりますか。

【市長】 8月12日という日にそういう陽性になった人と接触があったということが8月22日頃からスタートして市の職員にたくさん通知が来ましたので、最初は戸惑ったんですけども、自宅にいて一步も出ていない、その日休みでという職員にも来ているということもありましたので、どうもちょっと違うんじゃないかなというような感覚を持って進めてきましたけれども、今回、57人調べて全員陰性でしたので、よかったなという反面、何が原因なのかしっかりと究明していただきたいというふうに思います。

【記者】 関連して、自宅から一步も出ていないのに通知が来たというのは、通知が来た日に一步も出ていないのか、接触したという日に一步も出ていないのか、どちらになるのでしょうか。

【市長】 8月12日に接触があったという連絡が来た職員ですけれども、たしか22日に連絡があったと思いますが、8月12日は休みの日で一日中家にいたという形ですので、ちょっと現実的にはあり得ないなというふうに感じています。

【記者】 あと、COCOAについて、今回、22日に通知が来て報告があったということですが、プッシュ通知の方なんかというのはそれより以前でもあったかなというようにお話がありましたが、COCOAの運用とか通知についてのマニュアルというか報告に関するルールみたいなものは、事前に市として共有されていたりはしたのでしょうか。

【市長】 できるだけ入れるようにということは言っていましたけれども、連絡が来たとか、それぞれを時々チェックしなさいよとか、そういうルールづけはしていません。

ただ、通知が来た職員は、みんな市のほうに報告はしてくれています。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 今のに関連なんですけれども、昨日までも聞いているんですが、改めて行動履歴とかを調査して、共通する場所、行動というのはなかったということでもいいですかね。

【市長】 はい。それでいいです。

【記者】 原因をしっかりと究明してもらいたいとありましたけれども、今後、市として、県とか国とかへ報告とか原因調査を働きかけるとか、そういう予定はありますでしょうか。

【市長】 現状、私どもに起きた現象については、報告は随時入れていますし、お知らせすることはできるんですけれども、原因のほうは私どものほうでは分かりませんので、その辺の究明というのは、厚生労働省とかソフトの会社とかそういうところで調べていただかないと私には分からないということになるかと思えます。

【記者】 今回、59名のお一人に中山副市長もいらっしゃったかなと思うんですが、実際のその日の行動とか、またその通知が分かったときの感じとか、その辺何かあれば教えていただけますでしょうか。

【副市長】 私も57名の一人として、私の場合は8月23日のお昼過ぎに接触通知という形で届いてまして、8月12日に接触1名あるということでしたので、正直に申し上げますと、一番最初にそれを見たときに、何なんだろう、何でというのが正直なところですが、私の行動履歴等々を調べますと、そういう陽性者の方と接触したという覚えがない中で、まずは県の帰国者・接触者相談総合センターのほうへ電話をさせていただいて、そういう状況も踏まえてご相談をさせていただきました。

その時点で、私以外にも何人か当市の職員からの問合せがあるということで、一旦、国のほうの確認を含めてお時間をくださいということでしたので、折り返し電話するということでしたのでそれを待ちまして、しばらくしてまたお電話をいただいて、国のほうとしても接触の可能性は拭えないということでもありますので、県の判断としても、安全性の観点からPCR検査を受けていただきたいということでしたので、あとは敦賀病院のほうからの連絡を待つて検査を受けたという形で、昨日、陰性が確認されたというのが状況です。

【記者】 身に覚えがないような感じの中での通知だったかなと思うんですが、何かアプリへの疑いとか、何かちょっとおかしいんじゃないかとか、そういうふうにご自身で、受けた側として思われることはありますでしょうか。

【副市長】 最初は本当に、先ほども言いましたように何でというのが正直あったんですが、その反面、自分の知らないところで接触している可能性というのもこれで拾われるのかなというふうに考えるとどうなのかなと。そこも否定できるわけではありませんので、なかなかこのアプリに対してどうこうというのは難しいなという印象を受けております。

ただ、感染拡大ということで考えれば有効なアプリなんだろうというふうには思っていますけれども、市長も先ほど言いましたように、どの陽性者の方と接触したのかとか、そういう感染経路的なところを追えない、なかなか個人情報の観点から追えないようなシステムになっているようでもありますので、そこはなかなか難しいなというところがあります。そして個人的に感じたのは、接触通知イコール濃厚接触者と疑われる可能性もあって、その辺については、国のほうがもう少しアプリを推奨する中であって正しい情報を国民の皆さんにお知らせしてほしいというのは正直思ったところです。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今の関係で、部署によっては職員さんがかなり減ってしまったところもあった



と思うんですけども、市の業務に対する影響というものの受け止めといたしますか、どういう感じだったかというのを教えていただけますでしょうか。

【総務部長】 業務においては支障はございませんでした。若干遅れるのではないかと、遅滞するのではないかと懸念材料はありましたけれども、実際、何とか回すことができました。影響は出なかったということでございます。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【副市長】 ちょっと追加で。その後、庁舎の状況を見て回りましたところの感覚で言いますと、総務部長が言いましたように、大きな支障はなかったということでありますけれども、特に多く通知が来た部署の職員は、第1波のところでは2班体制とかの経験も踏まえて、そういったものが生きた形で冷静に対応はいただいていたのかなというのは感想としてございます。

【記者】 関連で、COCOAの件で。県庁の昨日の会見ですと、いろんな可能性がある中で、県外の方が市役所内を歩き回ったという可能性もあるというふうなご案内で、これまでのお話で、そういった来庁者対応の中で県外の方の対応を全庁的に調べていらっしやったと思うんですが、それも該当はないということよろしいでしょうか。

【市長】 COCOAの条件としまして、1メートル以内で15分以上ということを考えますと、市の職員がそういう人たちに、窓口業務をしていない人たちもいますので、接触した可能性は非常に低いというふうに考えています。

【記者】 分かりました。

それと、先ほどもありましたけれども、アプリの仕組みで、登録された方の個人情報、位置情報を把握しない仕組みになっているということで、なかなかこれ以上の原因究明は難しいのではないかとこの見方もあるんですけども、先ほど中山副市長もおっしゃいましたけれども、心当たりがないとはいえ、気づかずに接触している可能性がある。やっぱりPCR検査を受けるまで、周囲の方を含め、いろんな不安があったと思うんですね。そういった影響もあったという中で原因究明が難しい、このままフェードアウトしてしまう可能性もあるという、その点に関して、国に対して市長から求めたいことを再度お聞かせいただけますか。

【市長】 国に対してどうかというのは難しいところですけども、2日に分けて検査しましたので、先ほど中山副市長もおっしゃいましたけど、やっぱり最初の24人というのは非常に不安だったと思います。残された人たちもやっぱり不安だったと思いますし、COCOAを入れていない人もいますので、そういう意味では、気持ちの中の不安というのは非常に大きなものがあったと思います。

ただ、冷静にきちんと消毒作業もしてくれましたし、その後の対応もできましたので、そういう意味ではよかったなと思っていますが、県外の人たちが複数人行動されたとしても今の発生にはつながらない、要はそういう事象は起きないというふうに考えられますので、1メートルという枠を例えば20メートルぐらいに広げてしまえば受付で待っている間にというのはありますけれども、可能性としては考えられますが、そうでなければこの状態は考えられないなというふうに思っています。そういう意味ではしっかりと、ソフトか機器か分かりませんが、精度を上げていただきたいなということを思っています。

もう一つは、神奈川の知り合いのところに電話して聞いたんですけども、自分たちの

周りで出ていますかと聞きましたら、子供さんの友達とかが周りで出たりするけれども、保健所に連絡しても多分それでほっておかれる、都会では。ですから、もし症状が出たら連絡くださいね、それまでは気をつけてくださいねぐらいの世界なのかなと。ですから、COCOAでの接触という扱いが濃厚接触者じゃなくて、もう少しランクが大分薄いところの扱いということを私どもも理解しないといけないだろうと。その辺の扱いというのをどういうふうにすればいいのかを少し基準がいただけたらうれしいなと思います。

もう一つは、i P h o n e と A n d r o i d で対応が違いましたので、A n d r o i d は日にちが出ていますので8月12日と分かるんですけども、主にi P h o n e、全部がちよっと分かりませんが、例えば8月22日に通知がありましたというだけですので、いつかが分からない。いつの行動なのか分からないわけですから、そのまま不安を持ってやらなくてはいけないというところがありますので、そこもきちんと対応できるように、分かるようにしていただきたいというふうに思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 局地的に市役所では60人ぐらいということだったんですけども、この間、市民の方から同様の相談みたいなものは来たりしたんですか。

【福祉保健部長】 COCOAに関するご相談につきましては、敦賀市の健康推進課に設置しております一般相談窓口には月曜日、火曜日と1件ずつご相談がございます。その中には、報道を見られて、市役所職員ではないんですけども、COCOAで接触されたというところがあるんですけどもどうなんだろうというようなご相談もありましたので、市役所以外にも出ているというのはあるかと思えます。

【記者】 コロナ関連で。この1か月を振り返ると5人の感染者が敦賀市でも、この第2波と言われるようなタイミングでいうと、敦賀市としては初めて出てから5人出たという感じの流れかなと思うんですが、その間、市立病院なんかもその受入れであるとか、今日からですかPCR検査も実施するとか、そういうふうには、これまでは出なかったけれども市内に感染者が出てというところで、いろいろ病院としての対応とかそういうところにも変化もあったのかなというふうに思うんですが、この間、医療体制を守りながらコロナ感染者の患者さんも受け入れる体制というのは問題なかったでしょうか。

【敦賀病院事務局長】 まず、発生してから行ったことについては、まず面会を7月13日からは少し緩和しまして、肉親の方、同居の方2名、30分以内ということで面会のほうを緩和しました。しかしながら、こういった発生がありましたので、8月7日からはまた全面禁止。特定の方につきましては、医師の診断等のある方については別でございますが、一般の方については面会禁止ということで、当初の1波のような形の体制に戻っております。ただし、診療等は、当初の一番最初の1波のときのような縮小しているようなことはございません。

あと、1波のときからでございますが、感染症対策ということで、しっかり手指消毒とか検温とかそういったものを正面玄関もしくは外来それぞれの窓口でしておりますので、問題はないかと思っております。

あと、PCRにつきましては、6月の補正のほうで予算をお認めいただいておりますPCR用の専用の機械につきましては9月中に納入を予定しておりますので、その機械については専用でPCRの検査をしたいと思っております。それは1回に6体を検体できまして、

1日2回、12体がマックスというふうに想定をしております。

今、マイコプラズマ肺炎とか結核の検査をする機械がございます。それがPCR検査にも併用できますので、その機械でも8月17日からPCRの検査をしております。その検査の対象については、例えば救急で運ばれてきてちょっと怪しい方の検査を早急にしなければいけないというような方とか、あとは病院の中で熱発が出て急遽診断をしなくてはならないというような方につきましては院内のPCRを使う。ただし、一般の例えばCOCOAのような発生した方とか、通常の指定医療機関といいますか市内の病院からの紹介で来られた方については、通常どおりの帰国者・接触者外来のほうにご相談いただいて、相談いただいた方については私どもで採取をして嶺北の機関のほうでPCRの検査をしていたとくというふうな形のを想定しております。

以上でございます。

【記者】 ありがとうございます。

あと、職員さんのCOCOAの件もどこまでかかわっているか分からないんですけども、こうやって感染者が出て濃厚接触者を調べたりとか、結構、保健所の業務というのも急に増えてきた形じゃないかなというふうに思うんですが、その辺、この1か月を振り返って、二州の保健所のほうの業務というところはどんな状況だったか教えていただけますでしょうか。

【市長】 保健所の業務、分かれれば答えると思いますけれども。

私ども、感染者が出ましたので、県のほうのクラスター対策班とか保健所の医幹とかも来ていただきまして打合せをさせていただきました。その中で、どんな対応を取ったらいいかとか、どういうふうに考えたらいいかという、ある程度のことを意思疎通もできましたので、全く発生していなかったら顔も見ずに終わってしまうところが、そういう人的つながりとか信頼とか、次にどうしたらいいかということもつかめたと思いますので、そういう意味では一つの財産、発生しないのが一番よかったんですけども、一つの財産というふうに思っています。

【福祉保健部長】 保健所の業務でございますが、保健所のほうとは、感染症予防ということで、常日頃から連携を取らせていただいて業務に当たっておりますが、今回、コロナの市内の発生時、また今回のCOCOAでの感染の情報が多数出た件につきましては、本当に夜昼問わず保健所と連携を取らせていただいて連絡を取り合いながら、また、保健所以外にも県のコロナのチームの方などとも連携を取りながら対応をさせていただいております。

その中で、やはり感染が出ていなかった場合の保健所の状態と今は違っているというふうな、私たちの想像でしかないですけども、やはり土曜日、日曜日、夜等も対応されてご苦労されているのではないかなというふうには思っております。

以上です。

【記者】 一般の外来の病院に関して言えば、外来の業務なんかも支障はなかったというか、しっかり業務については確保しながら感染者の対応なんかもできたというふうにおっしゃっていらっしゃったかなと思うんですが、もともと、なかなか嶺南の医療体制を守りながら感染者が出た場合の対応というのが、嶺南で言うと医療の脆弱性とか言われているところで、その両立というのが今後ますます不安視される場所の一つでもあるかなとい

うふうに思うんですけれども、嶺南の医療体制の脆弱性を、より体制を強化していくというか解消していくということの要望なんかを市長はこれまでもされているのかもしれませんが、今後、県とか、国も関わるのかもしれませんが、そういうところへの要望というのはどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 コロナに限らず、医療体制の充実ということは常に県のほうとかにもお願いしておりますし、派遣しているお医者さんの医療機関、また大学とかにもお願いしているんですけれども、今回、コロナのことに限って、いろいろ充実していかなくてはならないということもありますけれども、県単位で対応するというのが一つの考え方だと思いますので、嶺南だけでとか嶺北だけではなくて、県全体でどう対応していくのかというのが大事なことだと思っております。ですからそういう意味では、コロナの発生において、嶺南から脆弱だということはあまり考えなくてもいいんじゃないかなというふうに思っています。

【記者】 県全体でというところは、どういう意味合いか、もう一回教えていただけますでしょうか。

【市長】 コロナで入院して、病棟がある量というのは知れていますけれども、県全体ではたくさんあるわけですから、その中に皆さんが行く。ですから、嶺南の患者なので嶺南で診るという考え方ではありませんので、県内で受入れできるどこかの病院に行くということになりますから、そういう意味では、敦賀市でたくさん出たから、それで全部あふれてしまいますよということではありませんので、敦賀で発生した場合でも県のほうに聞いて、どこに行くかというのはそちらで決めていただくことになりますので、そういう意味では県全体の医療体制ということを考えればいいというふうに思っています。

【記者】 現状の医療体制を見ながら、コロナに対しては県全体を見て割り振るような形を県のほうがコントロールしてほしいというふうなことでしょうかね。

【市長】 そうですね。ですから、嶺南、また敦賀市の分も増やしていかなくてはならない時期も、2波、3波とかがあればあるんでしょうけれども、そういうときは病棟を通常の使い方と違う使い方に変えていったりはしなくてはいけないんでしょうけれども、現状のことを考えると、県全体でどういうふうに捉えてそれを受け入れていくかというのが大事だというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 明日、県の原子力防災訓練が行われると思うんですけれども、敦賀市でもプラザ萬象とか運動公園の体育館が会場になっていると思います。敦賀市さんとしてどのように参画されるか教えてください。

【市長】 私どもは、おおい町の住民の方を受入れするということの参加になりますけれども。

【記者】 職員さんも行かれる。

【市長】 はい。職員も行きます。

【市民生活部長】 おおい町の住民の方が30名程度避難してくるということになりますので、市のほうといたしましては、避難所を開設いたしまして住民の方の受入れを行うということで考えております。

避難所の運営に当たりまして、受付ですとか、また避難所に来られましてからの例えば

座学、あるいはデモンストレーション、そうしたところを皆さんと一緒に避難所の運営体制を共有して勉強していただく。そういう機会を設けたいと思っております。

以上です。

【記者】 今回、特にゾーニングとかでコロナ禍での避難という形で行われると思うんですけども、こういったところを通して、敦賀市さんとしても知見を深めていくということによろしいですかね。

【市民生活部長】 おっしゃるとおり、先般、市のほうでもコロナ禍での避難所の運営の在り方というところを実地に研修いたしまして、職員皆で共有はしたところでございますけれども、また、県内での発生時、市外の方が来られた場合のコロナの在り方、またそうしたところも県からもいろいろご指導をいただきながら、市のほうでもそういう認識を深めていきたいと思っております。

【記者】 原子力関連でもう1点。全原協会長というお立場でもあるので、高レベル放射性廃棄物の最終処分と文献調査に名のりを上げた自治体がありますけれども、こうした動きを市長としてどのように捉えていらっしゃるか、教えてください。

【市長】 寿都町でしたけれども、最終処分場に町長が挙げられて、いろいろ反響を呼んでいるというふうに聞いていますけれども、冷静に対応して判断していただきたいなと思っています。

私どもとすると、最終処分場を受け入れてくださいという立場でもありませんし、どこかに造りましょうという立場でもありませんので、その様子を見ているという形になるかと思えます。

【記者】 とはいえ、原子力発電所を運営していこうと思うと必ず必要になる施設ではありますよね。そういった意味で、これまで立地が進んでいない、立地というか、立地する前段階すら進んでいないような状況だと思えます。そんな中でこういった動きが出てきているような反響を呼んでいるというところで、今後の原子力発電所の運営にも多少は関わってくる部分かなと思うんですが。

【市長】 そうですね。議論が進んでいない状況の中で手を挙げられたということは、一石を投じた形になりますので、議論をするということはいいことですので、その議論がどういうふうに進むかは別としまして、冷静な議論を進めていただきたいというふうに思います。

【記者】 先日、議会で、もんじゅの後継の試験研究炉の炉型について、文科省が概算要求を出した段階で敦賀市にも説明をしに来たいというようなことを言っていたと思うんですけども、概算要求は大体例年8月の末ぐらいだったなと思っていたんですけども、スケジュール的にはどんな感じになりそうなんですか。

【市長】 説明のスケジュールですか。

【記者】 日程がもう決まっているのかというのはありますか。

【副市長】 国の概算自体が1か月遅れるということでございます。

【記者】 じゃ、心積もりとしては9月の末ぐらいというふうに思っておけばよろしいですか。

【副市長】 全然まだ日程は決まっておりませんが、いつもですと8月末が概算の締切りですけれども、それが9月の末ということなので、今後の話だと思います。

【記者】 最初の挨拶でしたかね、庁舎の工期が遅れるということで議員説明会でも議員に説明されていらっしやったかなと思うんですが、5か月遅れるということになっておりますが、明日ですか、角鹿小中学校のことについても工期のこととか状況について議員説明会をやって、実際に学校のほうにも現場視察ということで工程が組まれているかと思うんですが、そちらのほうの工期の影響というのはいないのでしょうか。

【教育委員会事務局長】 今お話ございました。あした議員説明会ということで、その辺につきましてもご説明をさせていただきたいというふうに思っておりますが、現時点では工期内で工事を完成する見通しを得ております。ですので、来年3月に完成いたしまして4月開校ということで予定は進めさせていただいております。

【記者】 では、そちらに関しては少しの遅れもなく、来年4月に新しい学校での開校ということが予定どおり行くということによろしいでしょうか。

【教育委員会事務局長】 はい。現時点におきましては、そういうことで予定をさせていただいております。

【記者】 ありがとうございました。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

それでは、これもちまして9月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時25分 終了